



令和4年11月16日

僧帽弁閉鎖不全症に対する新たなカテーテル治療を 滋賀県内で初めて実施 【記者説明会のお知らせ】

滋賀医科大学医学部附属病院 循環器内科の中川義久教授、林篤志助教、八木典章助教らは、僧帽弁閉鎖不全症（※1）に対する新たな治療法である、経皮的僧帽弁接合不全修復術（経皮的僧帽弁クリップ術：MitraClip）を滋賀県内で初めて実施しました。



中川 義久教授

重度の僧帽弁閉鎖不全症に対しては外科手術が一般的に推奨されますが、患者さんへの負担が大きいことから、年齢や合併症などを理由に手術を断念することがありました。

今回実施した経皮的僧帽弁クリップ術：MitraClipは、足の付け根から挿入したカテーテルを通して心臓までクリップを運び、閉鎖不全に陥っている僧帽弁をこのクリップで接合することにより、血液の逆流を減少させる新しい治療法です。胸を大きく切開したり、心臓を止めたりする必要がないため、外科手術と比較し、患者さんの身体への負担を大きく軽減することが可能です。

滋賀医科大学医学部附属病院は、滋賀県内で唯一の実施設に認定され、令和4年11月9日に県内で初めてMitraClipによる治療を実施しました。手術を受けた患者さんの術後経過も良好です。

本院での治療開始により、特に滋賀県内の患者さんに対する治療の選択肢が増えることになりました。（本治療への適応や治療方針については十分に議論を行った上で決定いたします。）

今後も患者さんにとってより良い治療をご提供できるよう、努力してまいります。

つきましては、別添のとおり記者説明会をオンライン開催し、詳細について説明を行いますので、ご参加いただけますと幸いです。ご参加いただける場合は、事前に本学総務企画課広報係までご連絡をお願いいたします。

— POINT —

- ・ 令和4年11月9日に経皮的僧帽弁接合不全修復術（経皮的僧帽弁クリップ術：MitraClip）を滋賀県内で初めて実施しました。
- ・ 滋賀医科大学医学部附属病院は、滋賀県内で唯一、経皮的僧帽弁クリップ術：MitraClipを実施できる施設に認定されています。
- ・ 経皮的僧帽弁クリップ術：MitraClipは外科手術と比較し、患者さんの身体への負担を大きく軽減することが可能であり、年齢や合併症などを理由に、これまで手術が難しかった患者さんに対する治療の選択肢が増えました。
- ・ 特に滋賀県内の患者さんに対する新たな治療の選択肢を提供可能になりました。

※1 僧帽弁閉鎖不全症

様々な原因により、左心房と左心室の間にある僧帽弁が適切に閉じなくなり、左心室から送られる血液の一部が左心房に逆流してしまう病気です。血液の逆流が高度になると、息切れやむくみなどの心不全症状が現れることが多くなり、命にかかわることがあります。

記者説明会開催日時等

- ◆日時：令和4年11月22日（火） 11：00～
- ◆会場：WEB開催（Zoomを使用）
（本学広報係:hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jpに事前連絡いただくことで招待URLをお送りいたします）

【発表者】

滋賀医科大学 循環器内科
教授 中川 義久（なかがわ よしひさ）
助教 林 篤志（はやし あつし）
助教 八木 典章（やぎ のりあき）

《研究内容の詳細に関するお問い合わせ先》

滋賀医科大学 循環器内科
中川 義久、林 篤志、八木 典章
TEL：077-548-2213
e-mail：hqmed1@belle.shiga-med.ac.jp

《プレスリリース発信元》

滋賀医科大学 総務企画課 広報係
TEL：077-548-2012（担当：岩品）
e-mail：hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp